



六郷 ろくごう

六郷小学校

H29. 6. 30

No. 11

思う存分楽しんだ「わくわく町たんけん」

6月23日(金)、一日延期した「わくわく町たんけん」が行われました。この町たんけんの意義は大きく三つあったと思います。一つ目は、縦割りグループで行動することで、協力する気持ちや思いやる気持ちが育つことです。二つ目は、千畑地区の自然の美しさや歴史に触れることができたことです。三つ目は、思う存分遊んで楽しい思い出を作ることができたことです。この三つのことに触れながら、様子をお伝えします。

1 大木の杉並木を歩きながら

学校からバスで、北運動公園に向かいました。そこからグループごとにスタートです。予定では一丈木公園まで向かうことになっていましたが、熊の出没で残念ながら公園手前で引き返すコースとなりました。子ども達は、何か所かに設けられた問題を解きながら歩くマップリーディングを行いました。コースは千畑小学校付近の道路ですが、ご存じのように杉並木が壮大で美しく、子ども達にとっても自然を楽しむことができました。



6年生のリーダーぶりは一段と上がっているように感じました。道路を歩くときに、下級生に注意をしている姿や、問題に立ち止まったときにしっかり対応する姿にそれが表れていました。中には、6年生以外の子が積極的に行動しているグループもあり、頼もしさを感じました。



飴を食べられるポイントがありました。数個多めに入っていました、うまく分けられたでしょうか。

2 どこでも遊べる子ども達

スタートの北運動公園は、時間差をつけて出発するために、早くゴールしたチームは待っている時間がたくさんありました。そこで公園内を自由に遊べることになりましたが、ちょうど公園に小高い丘があり、子ども達はそこに登ったり、走り降りたりして遊んでいました。その丘は、草刈りをしてあって、「ミサト」という文字が浮き出るように刈られていました。

子ども達はどんな所でもすぐに遊べます。学校の休み時間だけでは、なかなか十分には遊べませんが、今日だけは思う存分遊ぶことができたようです。



3 ラベンダー園は最高！

ラベンダー園では、本当に思いっきり遊ぶことができました。今の子ども達は、追い立てられて生活しているのではないかと感じます。そんな生活の中で、この「わくわく町たんけん」のような一日は貴重であると思います。これだけ全校一緒になって遊ぶ時間はありません。きっと満足した一日になったことと思います。



今、学校の一番の課題は関係性を育むことだと捉えている。学校に大人や親が一番期待しているのは、学力ではなく、友達とうまくやっていたり、社会性を身に付けてほしいということだと様々な調査ではっきりしている。

子どもはどうやって関係性を育むか？基本は遊びなのである。ところが今は、三つの学校があると言われるとおり、学校、習い事、そして家に帰ってさらに宿題、ドリル、家庭学習。その三つの学校がある中で、本当に友達や兄弟姉妹と関係を豊かに結んで遊び呆ける時間がない。

かつて並列で進んでいた地域社会における遊びが衰退した中で、もっと関係を育む子ども文化を、学校がどう取り込むかという事が課題であったのに、忘れて置き去りにしたんだろうと思っている。それが一番でき得るのは、学校内では、休み時間をどこかで長くとること、体育を見直すこと、行事を見直すこと、授業で学び合うことを強めることの四つがあるだろうと考えている。（参考文献より）

子ども学習参観やってます。

5年生が6年生の授業を見に行くという「子ども学習参観」が行われています。1年生が2年生の授業を、3年生が4年生の授業を参観しています。詳細については、次号でお伝えします。今回は、その様子を写真でご覧ください。

